

## 編集後記

この度、『浄土真宗総合研究』第十八号を発刊いたしました。す。

今、急激な時代の変化のなかで、宗教教団の意義が問われていきます。一九八八年に『寺が消える』というNHK特集が放送され大変話題になりました。ここでは「急激な過疎化」が寺が消える主な原因として取り上げられていますが、それから三十七年が経過した今日では、インターネット（特にSNS）の普及、人々のライフスタイルや価値観の変化、さらには宗教教団が絡む社会問題など、問題はさらに複雑になり、単に「これまでこうしてきた」というだけでは物事が継承されなくなり、改めて宗教教団が存在する意義を問い直さなければならぬ状況になっています。そのような背景を鑑みて、今号のテーマ「仏教における教団―歴史と現在―」は設定されました。テーマに込めた意味や各論文の意義については、寺本副所長の「総論」に詳しく述べられていますのでご一読いただきたいと思います。そこでは、「歴史学領域」「文献学領域」「教学領域」「実践学領域」という浄土真宗に関するそれぞれの学問領域が、互いに交渉を持ってこなかったことが指摘され、そ

の具体例として浄土真宗の学問体系における「教団論の欠如」が挙げられています。なぜそのようなになったのかを一概に言うことはできませんが、教団に関わる者にとつて、過去から連綿と受け継がれてきた教団があることが「自明のこと」のように思われて、いわば一種の正常性バイアスのようなものが働いてきたこともその一因ではないかと思えます。そして新型コロナウイルス感染症によって、その問題がごまかしようのない状況として明らかになってきたのが現在の状況ではないでしょうか。しかし見方を変えれば、これは今まで欠如していた教団論について議論を深める出発点であるとも言えます。その意味で本論集が今後の議論の一助となることを願っております。

浄土真宗本願寺派総合研究所は、昨年度より「現代教団学・課題研究室」「伝わる伝道研究室」「東京支所」の二室一支所の体制となり、それぞれの専門性を活かした研究・調査・編纂の事業を継続しています。「自他共に心豊かに生きたことのできる社会の実現」に向け、今後も、その成果を『浄土真宗総合研究』やさまざまな研修会・刊行物などを通して公開して参ります。

（『浄土真宗総合研究』編集委員会）

## 浄土真宗本願寺派総合研究所 所掌事項一覧

### 1. 現代教学・課題研究室

- ・宗門運営の総合的研究及び宗勢基本調査に関すること
- ・現代的諸課題の調査研究に関すること
- ・総局が指示した教学諸問題に関すること
- ・他宗教の研究及び他の宗教団体との協力に関すること
- ・宗門教学会議の運営に関すること
- ・六条円卓会議の運営に関すること
- ・儀礼の研究に関すること

### 2. 伝わる伝道研究室

- ・現代に即応する真宗教学の再構築及び調査研究に関すること
- ・伝わる伝道の研究に関すること
- ・真宗聖典の普及に関すること
- ・ITとメディアを活用した伝道方法の研究に関すること
- ・過疎地域及び都市部における伝道並びに国際伝道の研究に関する  
こと
- ・教学相談に関すること
- ・儀礼の普及に関すること
- ・仏教音楽の研究及び創作、普及に関すること

### 3. 東京支所

- ・首都圏における教学伝道の振興に関すること
- ・首都圏における思潮や情勢その+他諸問題の調査、分析に関する  
こと
- ・首都圏における宗教事情及び他の宗教団体の研究に関すること
- ・首都圏における教学伝道上の諸課題その他諸問題の研究及び対応  
に関すること
- ・首都圏におけるITとメディアを活用した伝道方法の研究に関する  
こと

## 執筆者一覧

- 香川 真二 (かがわ しんじ)  
浄土真宗本願寺派総合研究所 上級研究員
- 塚本 一真 (つかもと かずまる)  
浄土真宗本願寺派総合研究所 上級研究員
- 隅倉 浩信 (すみくら ひろのぶ)  
浄土真宗本願寺派総合研究所 研究員
- 林 龍樹 (はやし りゅうじゅ)  
浄土真宗本願寺派総合研究所 研究員
- 溪 英俊 (たに ひでとし)  
浄土真宗本願寺派総合研究所 研究員
- 遠山 信証 (とおやま のぶあき)  
浄土真宗本願寺派総合研究所 研究員

---

令和7（2025）年3月27日 現在

## 浄土真宗総合研究 第18号

---

令和7（2025）年3月27日 印刷

令和7（2025）年3月27日 発行

編集・発行 浄土真宗本願寺派総合研究所

〒600-8501 京都市下京区堀川通花屋町下る 本願寺門前町

TEL 075-371-5181（代表）

FAX 075-351-1372

印刷 合同会社自照社

---